

第1回アディクション関連問題研修会

日時 平成22年12月1日(水) 13:30~16:30

会場 アルファあなぶきホール 多目的大会議室

講義 「薬物関連問題介入の基礎を学ぶ」

第一部 薬物依存の理解

第二部 薬物依存からの回復とその支援

講師 西村 直之 先生

(あらかきクリニック院長〈沖縄県〉・精神科医・医学博士)

(NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク代表)



(参加者 110名)

これまで薬物問題への対策は、薬物の「供給」の根絶、薬物を不正に使用する人の手に渡らないようにすること、薬物問題を取り締まることに主眼がおかれてきた。しかし近年は「需要」の根絶、福祉的政策へと移り変わってきている。薬物依存者の回復支援、社会復帰を支える中間施設の充実や、家族へのサポートが重要視されるようになってきた。

依存性薬物とは、覚せい剤や麻薬、向精神薬、トルエンなどの有機溶剤のことを言う。また、市販されている頭痛薬や咳止め薬、たばこやアルコールも依存性薬物である。合法か違法かという法律の問題と、健康上の実際の危険度は違うと言える。

薬物問題の進行過程は「機会的使用」から、ある一群が「日常的使用」へと進み、さらにその中の一部の人々が「強迫的使用」へと進行する。進行過程の中で使用と中断を繰り返す。アルコールを例にとると、「飲み会の時だけ飲酒」から「日々の晩酌」そして「飲まないと言えない」「酒がなくてはならない」となる。しかし、全ての人がこの過程を進むのではなく、自然経過で薬物使用を中断し、自己修正する人も多くおり、二度と戻れないものではない。

人が薬物を使い始めるのは、多くの場合は若年時であり、身近な人間やメディアなど、「人」と「環境」の影響が大きい。最近では、発達障がいなど、心理的発達の問題を元々もっている場合の薬物との関連が注目されている。

人が薬物を使い続ける理由は、薬物使用の気持ち良さというよりも、疲れやストレス、現実逃避、しらふでの生活での折り合いの悪さ、対人関係の困難によることが大きい。好きで使っているのではなく、薬物のない状態になじめないため、生きていくために使っていると言える。薬物を使い続けることによって、仕事や家族、友人などの自身を取り囲む環境が変容して社会的孤立に陥る。また、次第に薬物を使える社会の中だけで生きようになる。自身の思考も「私がいいんだからいい」というように自己中心的に変容する。自身を取り囲む環境と、自分自身の変容によって「また使ってしまった」「止められない」という悪循環に陥り、より激しい欲求となっていく。



薬物問題において重要なのは、早期に「介入」して使用段階の進行を食い止めること、再使用しない環境づくり、薬物を手放す力をつけていくサポートである。また、薬物問題は、医療や司法の問題だけではなく「福祉」の問題であり、「どう生きていくか」をサポートする自立支援の問題でもある。「なぜ薬物を使用しなければならなかったのか」という薬物依存者の背景を理解した上で、薬物を止めても生きていけるというサポートが必要である。

薬物依存からの回復において理解しておかねばならないのは、薬物依存者が薬物を手放すことのリスクを抱えているということである。しらふでの生活での折り合いの悪さから使用し始めた薬物を止めることによって、再びしらふで社会と向き合わなくてはならない。社会的圧力や偏見、強迫的な薬物欲求、自己否定の感情にも向き合わねばならない。薬物を止め続けて頑張ろうとすればする程、大きなプレッシャーがかかるのである。薬物を手放すことのリスクを援助者と被援助者の両者が認識し、共有することが重要である。

薬物依存者の回復とは「薬物を使用しない暮らし」に至ることであり、回復支援とは「薬物を使わない日々をプロデュース」することである。

- ① 孤立から解放する。
- ② 自己否定から解放する。
- ③ 自傷行為（被害者無き犯罪と言われる行為）から解放する。
- ④ 他人・自分自身へのうそから解放する。
- ⑤ 「使いたい」とか「使いたくない」ということすら選ぶことができない病的欲求から解放する。

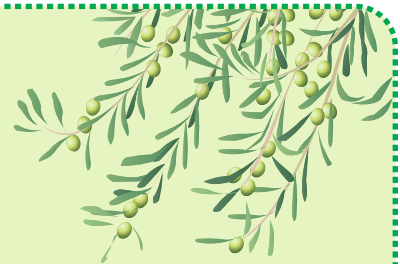
大切なのは、薬物依存者が背景に抱えている問題や思い、何に困ってきたのかを理解し、日々の暮らしができるように支えることである。一人の「人」として、薬物問題を含めて個人の「特性」を踏まえた回復支援が必要である。 (乙武 秋山 記)



当センター 藤岡邦子所長より謝礼の辞

オリーブの会

精神保健福祉センターでは、女性アルコール依存症の自助グループ「オリーブの会」を開いています。オリーブの会に参加されている、K・Sさんからのメッセージです。



女性のアルコール依存症の方々は、女性特有の生きづらさを抱えながら、誰にも言えず飲酒のコントロールが出来なくなり、内に引きこもりがちです。

オリーブの会は、そのような悩みや体験を語り合う集まりです。つらい気持ちを一人で抱え込まず、それぞれの問題を話し、少しずつ克服していきませんか？

参加者は女性のみなので、気軽に参加してください。

オリーブの会には、アルコール依存症のつらい思いを分かち合える仲間がいます。

開催日時 毎月第2火曜日 14:00～16:00
毎月第4水曜日 13:30～15:30
費用 無料